

# 会 議 録

会議名	小中学校適正規模検討委員会
日 時	平成 18 年 11 月 26 日 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
場 所	新宮市役所第 2 委員会室
出席者	委員全員出席、大江教育長、清水総括指導主事、引土主任栄養士、平見
概 要	<p>1. 前回会議の報告（事務局）</p> <p>2. 小中学校の適正規模と配置について</p>
委員長	<p>前回会議の報告を事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>まず 1 点報告させていただきます。市民アンケートにつきましては、小中学校・幼稚園・保育園の先生方・職員、50 歳以上の市民 300 人を対象にアンケートを依頼しており、12 月 4 日回収し、和歌山大学で集計、分析をしていただくことになっております。</p> <p>続いて、前回の会議内容について報告。これまで議論された結果を踏まえて、統廃合に伴う事業費等について資料に基づき説明。</p>
A 委員	<p>中学校の案はまとまったと思う。今までの考えを根本的に覆すことになるが、将来的な人口減を考えれば小学校を一つにまとめる方が良いのではないか。緑丘中に小学校 4 校を統合し、城南中に中学校を統合し、王子小学校をバックアップとして考えてはどうか。</p> <p>緑丘中は市内の中心地であり、今後の人口動態を考えた場合、小学校 4 校を緑丘中に統合してはどうか。子供たちの通学を考えても、通学しやすい。今後、人口は減り、一つの学校に統合し、レベルの高い学校教育としたほうが良い。近い将来、また統合の話が出る。距離的には中学生は遠くなるかもしれないが、さほど距離も変わらないので城南中に中学校は移した方が良いのではないか。緑丘中の方が小学生の通学距離が近くてよい。千穂小に建設する場合、敷地も狭く工事もやりにくい。原点に戻って考え直してはどうか。</p>
B 委員	<p>緑丘中に小学校 4 校 41 学級を統合したとき、教室がそのまま使えるかどうか。新設するということですか。</p>
委員長	<p>地域的な問題は解決すると思うが、学校を下支えする地域がどれだけ結びつけるかが問題だ。一足飛びでは問題も出てきますので、段階的に行ったほうが良いのではないか。</p>
C 委員	<p>確かに千穂小の立地条件も広げられないし厳しい。校舎は増設でいびつになっている。北海道の夕張市は財政破綻から小・中を 1 校ずつにしているが、子供たちにとっての教育環境を考えていただきたい。小学校 4 校を 1 校にするのは厳しい。教育的な中身を考えた場合、我々としては 4 校を 2 校にするだけでも大変なことです。現場としては、将来的には 1 校にということ考えられるが、現状は 2 校の方が良いと考える。</p>

## B委員

地域との密着度を考えれば、小さいエリアの方がよい。むしろ小学校は2校より3校の方が良いと思っているくらいだ。1学年3学級の方が良いと個人的には思う。10年スパンで考えていくことが大切だ。

## D委員

経済面などを考えればよいかもしれないが、いじめ問題などを考えれば小規模校の方が、子どもが育つ良い環境だと思う。

## 委員長

A委員の意見は、長期的ビジョンの中で考える必要があると記載して欲しいと思う。確かに中心地に小学校があればと思う。

## A委員

いずれそのような時代が来るのであれば、経済的メリットがあるので1校にすればと思ったのだが・・・。

## E委員

私の子も違う学校区に行かせているが、地域の人も校区をきっちり守っている。小学校を1校にした場合には、どうしても旧市内で遠くなる地域が出る。校区は必要なのか。保護者の判断で、子どもの通学路をきめるのは親の責任だ。私は1200人を超す大規模校で育ったが、そこでは家庭状況に配慮し、運動会でも昼食は運動場でとれなかった。今はゆったりと運動場で昼食が出来る。

## D委員

日本では生徒数をまとめ効率よくしようとするが、欧米では全校の生徒が150人とか、フィンランドでは60～70人だ。

## 委員長

筒井委員から論点の明確化をお願いされており、学校統廃合のパターンを次の6点について検討してもらいたい。

- ①通学時間に係る地理的な問題（直線的な距離だけでなく、高低度も配慮）
- ②人口動態の配慮
- ③地域の文化的側面
- ④財政事情（合併特例債を活用すれば補助率が1/3から1/2にアップする）
- ⑤施設面の老朽化
- ⑥教育の水準、パワーアップ、学校規模をどう考えるか。

過小規模校はユニットとなる学級は変えられないが、大規模校の中では融通を利かすことができ、少人数教育が可能だ。教科センター方式は、美術・理科等は、別の教室に移るが、数学等も別の教室に行って学ぶ方式だ。壁を取り払ってオープンスペースを作ることもできる。

## E委員

中高一貫、小中一貫とよく聞くが、どちらを将来定めるのか。

## 委員長

中高一貫を進めているのは都道府県で、和歌山県も先行して進めている。小中一貫は市町村が指導して進めている。どちらかといえば中高一貫はエリート教育、小中一貫は地域密着型である。

## F委員

中高一貫は、始まったばかりであり、卒業してどうなったかまだ結果が出ていない。

## 委員長

県立中学校4校の中高一貫は明暗が分かれた。(倍率4～10倍)

## F委員

小中一貫の方が、教育指導面で9年間を見通している。

## G委員

三輪崎小と光洋中は小中一貫モデル校になっている。メリットとしては小学校から中学校に上が際、抵抗が少ない。先生方の人事交流もあり情報も交換している。中学校が1つなら小学校も1つにするやり方もある。子供たちの教育面を考えたとき、そういうメリットもある。

## 委員長

2小学校1中学校にして、将来的に小中一貫校へもっていく方法もある。

## G委員

小学校4校を2校に、中学校2校を1校にということですか。

## B委員

中学校2校の存続が難しくなっていており、やむをえない。

## 委員長

中学校は1校の可能性が出てきた。

## H委員

千穂・丹鶴の敷地は世界遺産や観光面でもメリットがある。

## 委員長

それは跡地利用の問題で、我々としてはまず教育面での検討を願いたい。

## A委員

吉田委員は、子どもさんが丹鶴から蓬萊に通うことについてはどう思われるか。

## E委員

心情的なもので、吸収合併されたような気がする。新たな場所に学校を建設した方が良い。どこへもって行っても通学が不便なところが出てくる。教育環境が良くなるのであれば、統合も理解される。校舎が新設されるだけでは駄目だ。公民館の会合で、丹鶴小をつぶすわけにはいかないと言われた。

## 委員長

6つの教育視点で、各パターン化した一覧表を事務局に作成してもらいたい。

1案 千穂・丹鶴小を緑丘中へ、蓬萊・王子小を蓬萊小へ。緑丘中を城南中へ。

2案 千穂・丹鶴小を千穂小へ、もしくは千穂・丹鶴小を丹鶴小へ

蓬萊・王子小を城南中へ。城南中を緑丘中へ。

3案 緑丘中に千穂・丹鶴小を移し、小中一貫校にする。

城南中に蓬萊・王子小を移し、小中一貫校にする。

高田小学校は小規模特例校として残してはどうか。高田は学校になじめない子どもの避難場所として別枠で考えてはどうか。本審議会では1つの案に絞り込まず、複数の案を市民に提示することも考えられる。

教育のパワーアップ、高田と熊野川の対応、市全体も地域も高まる方策を検討していきたい。次回までにはアンケートの集計は時間的に難しいため、先程の統廃合案を6つの視点で検証したいと思います。

(15:30終了)